

献呈の辞

縫田清二先生は平成四年三月、本学をご定年で退職された。

先生が法学部に専任教授としてお見えになったのはついこの間、昭和六二年四月。五年間はアツという間で、短くという印象を受けるかもしれない。けれど、横浜国立大学ご勤務のかたわら、昭和四七年以来、ずっと経済学部非常勤講師をつとめられたことを思い合わせると、先生の、成城への、うち込み方はずいぶん深いもので、浅からぬ縁を感じさせられる。

お教えになった科目は社会思想史、社会科学概論などであるが、とりわけユートピア思想へのご関心はお若いころから今日まで一貫し、かずかずの著作がこのことを裏づけている。ユダヤ思想の研究もこれと関連する。若き日の縫田先生がエルサレムのヘブライ大学に学び、マルティン・ブーバーの教えを受け、足しげくキブツを訪ねられたのも、やがて先生の、その後の理論と実践の大きな糧になったものと思われる。

大学では研究・教育はもちろん、最近ホットになっている話題、専門と一般教育の折り合いについてもキメこまかな配慮をなさっていた由である。たしかに、先生は泰然として悠揚迫らぬものごしの方である。けれど、全貌をつかみ、つかもうとする鋭い目配りがカゲに宿っていることも、先生の風貌を一層、深みのあるものにしていないだろうか。

飲めば歌も出る、ゆっくり語り合う、そんなところに先生のお人柄の良さが滲んでくる。それに、先生は根っか

らの国際人である。つい先ごろもタイに行つてらしたとか。そうしてすばらしいスタイリスト。先生が自由の天地を闊歩し、今後一層のご発展をなさいますよう、心から期待しております。

平成五年一月

成城大学法学部長

矢崎

光

圀